

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社長



自動車内装分野の売上高が国内・海外共に拡大

◆インテリアと自動車・車両内装の売上高比率が50：50に

2008年5月期の連結売上高は808億69百万円(前期比41億99百万円増)となり、期初計画の790億円を上回った。営業利益は23億2百万円(同2億78百万円増)で、計画の23億円を上回ったが、経常利益は22億88百万円(同2億86百万円増)となり、計画の26億円に対して未達となった。当期純利益については、前期は繰延税金資産の計上により27億20百万円となったが、当期は正常化したため、9億82百万円(同17億38百万円減)となっている。

売上高については、自動車・車両内装関連が国内・海外共に拡大し、インテリア事業も堅調に推移したため増収となった。営業利益については、原材料の値上げによるコストアップや大型設備投資による減価償却費の増加、米国子会社の収益化の遅れなどがあったが、製造拠点の徹底した生産効率の向上や国内自動車内装材の受注拡大などにより、前期比、期初計画比共にクリアしている。経常利益については、例年、営業利益を3億円程度上回っていたが、持分会社であるタイの自動車内装材製造拠点のマイナスやエアバッグ製造会社(長崎)の収益化の遅れにより、持分法適用会社損失が3億10百万円発生したため、営業利益とほぼ同水準にとどまった。

売上高のセグメント別内訳は、インテリアが378億64百万円(前期比2億79百万円増)、自動車・車両内装が380億97百万円(同40億15百万円増)、その他が49億7百万円(同94百万円減)となっている。営業利益については、インテリアが10億47百万円(同5百万円減)、自動車・車両内装が25億75百万円(同3億12百万円増)、その他が2億10百万円(同25百万円減)となった。なお、中期経営計画では、インテリアと自動車・車両内装の売上高比率を50：50にすることを目標としている。前期はインテリアが49%、自動車・車両が44%であったが、当期は共に47%となり、計画を1年前倒しで達成することができた。

◆環境に優しいオンリーワン商品の売上が増加

インテリア事業分野の状況としては、2007年6月に施行された改正建築基準法により住宅着工件数が急減している。年度後半からは市場の低迷が鮮明となり、収益面でも原油高による原材料の高騰が大きく影響するなど、非常に厳しい外部環境となった。このような中、リサイクルタイルカーペット「SG-300」や、ペットボトル再生ポリエステル長繊維「スミトロン[®]」を使ったラグマットなどの環境に優しいオンリーワン商品が、CO₂削減の世界的な潮流の下で売上を大きく伸ばし、インテリア事業全体では売上・利益共に前期と同水準を確保することができた。

当期の営業実績としては、「SG-300」が全国展開するホテルチェーンに採用され、また、子会社のルノンが扱っている「空気を洗う壁紙[®]TF-V」が医療施設等で採用された。「空気を洗う壁紙[®]TF-V」は、トリプルフレッシュ消臭機能を付けた壁紙で、改正建築基準法の影響でマーケットが縮小する中、前期に比べ大幅に伸びている。

自動車内装分野については、国内の自動車販売台数が前年を下回り、原材料高騰によるコスト高や低価格化の加速、開発・販売競争の激化など、厳しい状況ではあったが、創業以来のコア商材であるカーペットからシート表皮材、天井表皮材まで、自動車室内をトータルで提案できるインテリアファブリックメーカーとしての強みを生かし、吸音カーペットや消臭機能を持ったシート表皮材など、付加価値の高い商品を積極的に展開した結果、国内でのシェアが拡大した。海外では、米国STA社の収益化が遅れたものの、カーペット、シート表皮材共に売上を大きく伸ばしている。

車両内装分野では、バス向け売上が前年を下回ったものの、リサイクルシートクッションが環境に優しい商品として売上を大きく伸ばし、車両内装分野全体では売上・利益共に堅調に推移した。

その他の事業については、OEM事業やホットカーペット事業が堅調に推移しており、大幅なコストアップがあったものの、社内の無駄、ロスを排除することで利益を確保することができた。

◆2009年5月期は連結売上高830億円へ

連結貸借対照表については、総資産が前期の771億76百万円から799億35百万円に増加した。内訳としては、現金が67億46百万円から89億60百万円に増加しており、これは5月末が金融機関の休日であった影響である。棚卸資産は前期比で約14億円増加しているが、これは売上拡大に伴う積極投資による増加であり、主な内訳としては、米国で5億円増、国内で3億円増、子会社のルノンで3億円増となっている。有利子負債は157億円から148億円に圧縮しており、中期経営計画最終年度（2009年5月期）の目標150億円を1年前倒しでクリアした。その他の純資産は109億33百万円から92億4百万円に減少しており、保有している株式の価値が低下した。

2009年5月期の連結業績は、売上高830億円、営業利益25億円、経常利益26億50百万円、当期純利益15億円を計画している。世界経済の混乱など、状況が変化する中で景気後退が予測されるが、米国生産拠点をはじめとするグローバル体制の強化や得意とする環境に優しい商品の積極的な展開により、売上高は前期比22億円増（国内7億円増、海外15億円増）を目指す。セグメント別の内訳は、インテリアが380億円、自動車・車両が400億円、その他が50億円となっている。なお、自動車・車両内装分野の国別の内訳は、国内が315億円、米国子会社が72億円、中国子会社が13億円で、連結売上高400億円を見込んでおり、さらに事業全体としては、持分法適用会社（タイ、中国、インドネシア）の売上高を含めて451億円を見込んでいる。

利益面については、原材料値上げによるコストアップなどの利益圧迫要因が考えられるが、インテリア事業分野では、リサイクルタイルカーペットやトリプルフレッシュ消臭壁紙などのブランド事業を積極的に展開することで収益性を高めていきたい。自動車・車両内装分野では、米国子会社に人的支援を行い、安定的な生産体制の構築を図ることで収支改善を推進する。以上により、営業利益は前期比2億円増を目指していく。

◆北米の重要拠点STAの製造設備を拡充

2009年5月期は、中期経営計画「ACTION-2008」の最終年度に当たる。掲げた目標のうち、連結売上高800億円、インテリアと自動車・車両内装材の比率（50：50）、有利子負債の圧縮（3年間で20億円圧縮）については、当期に前倒しで達成した。営業利益は30億円、経常利益は35億円を目標としていたが、達成が難しいと判断し、それぞれ下方修正している。

当期の株主配当については、2.50円の間接配当を実施しており、期末についても2.50円を予定している。また、当期は100万株（取得総額2億69百万円）の自己株式の市場買付けを行った。設備投資については、中期経営計画の3年間で40億円を計画しており、内訳は、国内が6割、海外が3割、IT投資が1割である。当期までに28億円の投資を実施した。

自動車内装分野の海外展開として、北米の重要拠点であるSTAでは、受注拡大に対応するため、製造設備の拡充を図った。今年3月に1,000万ドルの増資を行い、資本金が3,000万ドルとなっている。中国の生産拠点であるSPMについても、250万ドルの増資を行う予定である。また、自動車メーカーのデザイン部門との米国における連携を密にするため、ロサンゼルスにデザイン事務所を開設した。インドの自動車市場については、今後の拡大が見込まれているが、大きな投資を行ってもリターンを求めにくいことから、現地企業と業務提携を行った。以上のとおり、北米、中国をはじめ、世界各地にグループ企業や提携企業によるグローバル生産供給体制を構築しており、今後も積極的に強化していく予定である。

当社は、1998年に「環境対策宣言」を発信し、人と地球の健やかな共存を目指した基本理念のもと、環境に優しい技術や商品の開発に積極的に取り組んできた。現在では、世界的なCO₂削減の流れの中で、当社の取り組みや製品が高い評価を得ている。一例として、カーペットリサイクルシステムについては、回収した使用済みタイルカーペットのバックング材からリサイクルパウダーを製造し、ピュアパウダーを混ぜることによって、新たなタイルカーペットを生産するシステムとなっており、生産から出荷、使用、回収のすべての工程で、従来のナイロントイルカーペットよりCO₂を19%削減することができる。

自社生産しているポリエステル製長繊維「スミトロン[®]」は、使用済みペットボトルから再生したリサイクル繊維である。現在、約2,300トンを生産しており、今期は3,000トン程度を生産する予定となっている。新幹線N-700系にも採用されたシートクッション材は、回収後、ケミカルリサイクルにより、ワイシャツなどに使われるリサイクル繊維に生まれ変わる。

（平成20年7月23日・大阪）

（平成20年7月25日・東京）